

丹後国田辺藩大庄屋木船衛門家文書の調査と概要

長谷川 巴南

1 木船家文書調査の沿革

木船衛門家文書（以下木船家文書）は、京都府舞鶴市に伝来した木船家の近世後期から近代にかけての 9022 点の文書群である。現在は京都府立丹後郷土資料館に寄託されている。

京都府立大学文学部歴史学科文化遺産学コース文化情報学研究室による木船家文書調査は 2019 年 6 月に開始した。2013 年度より文化情報学研究室は舞鶴市において史料調査を実施しており、その延長に位置付けられる。調査にあたって舞鶴市郷土資料館において、舞鶴市・舞鶴地方史研究会とともに史料の撮影、ラベル貼付け、目録化、翻刻を行い 2023 年 6 月には全点の調査が完了した（写真）。

2 木船家について

近世後期、木船家は丹後国田辺藩領内の溝尻村に居住し、3 代にわたり祖母谷組の大庄屋を務め、代々「木船衛門」を称した。大庄屋とは数カ村から数十カ村の村を統括する地方の役人である。藩（郡奉行所）からの触を庄屋などへ下達、訴訟・願書などを上達し、組内の民治全般を掌握する役割を担う。



写真 文書調査の様子

1 代目・木船惣右衛門は、文化 3 年（1806）4 月 13 日～文化 9 年 10 月まで大庄屋を務め、この後、森村の高橋大家に交替するが、文化 12 年 10 月に再び大庄屋に任用される。天保 3 年（1832）11 月まで大庄屋を務めた。2 代目・木船藤右衛門はその跡を引き継ぎ、天保 3 年 11 月 26 日～安政 2 年（1855）7 月 9 日まで約 30 年間にわたり大庄屋を務めた。3 代目・木船衛助は安政 2 年 7 月 9 日～慶応元年（1865）9 月に死没するまで大庄屋を務める。以降、祖母谷組は別の家が大庄屋となるが、木船家は存続し明治以降も区長や京都府農会議員などを務めていた。

3 木船家文書の概要と内容

木船家文書は 19 箱に分かれた状態で京都府立丹後郷土資料館に持ち込まれた。箱の状態と点数は、2024 年 2 月時点で 9022 点を確認でき、それぞれの箱のおおまかな内容と年代を表 1 にまとめた。

木船家文書には近世～大正期の史料が含まれ、時代区分を施すと、①大庄屋就任（文化 3 年以前）、②大庄屋就任期間、③明治維新以後となる。全ての箱は近世と近代の史料が入り交じるか、近代以降の史料で構成されている。

また、それぞれの時期に庄屋・大庄屋や区長、府農会議員などの公的な役職に関連する史料

以外に、④家政に関連する史料、⑤個人的な金銭関係の証文・状物、⑥趣味に関連する史料（囲碁・俳諧・絵葉書・生花・美術品など）、⑦占術に関連する史料（刊本・家相図・占術道具・暦・太真瓊教会関連など）、⑧学問に関連する史料（手習書・心学書など）、⑨近代以降の東舞鶴開発に関連する史料（事業契約書・絵図など）などに分類できる。

本書は木船家文書目録の箱14・18を収録するのみであるが、史料群の全体概要として箱の内容をおおまかに押さえていく。

まず箱1は書状と帳面が入り混じる箱で、帳面には野方御見分、秤・分銅御改、伊能忠敬の測量に関する一括関係がある。野方御見分は天保5年～文久3年(1863)、秤・分銅御改は文化5年～嘉永6年(1853)の史料が一部残り、測量は文化3年に実施されたため、当該時期のものが残る。

箱2、3、6はほとんどが近代史料であり、占術・生花・能などの趣味に関わるものや、蚕糸・農業・議会といった近代の木船家の公的役割に関わる史料が残る。

主に近世史料で構成される箱4は、木船家の家史料として他の箱と差別化できる。安政4年「収治祝儀諸事紙面帳」(4-2)や「御悔帳」といった冠婚葬祭関連や、慶応3年「衛門義毅金毘羅参宮記録」(4-7)といった旅行記録がある。

箱5は近世の証文・書状が多く、火災による焼失割の割付記録(5-98-1～6)などが残る。箱7も同様に近世史料を含むが、「福寿到来帳」「大福帳」といった家政に関する内容の帳面が多い。また、明治大正期の「当座日記帳」「田畑預ケ口帳」がそれぞれ10冊程残り、近世の木船家経営との比較が可能である。

箱8～12はほとんどが近代史料であり、箱8は俳諧集や典籍、農業雑誌、箱9は絵葉書や新舞鶴関連の冊子、箱10は家相図、箱11は冊子や新聞、箱12は証書・証文の類が内容の主である。

箱13は全ての箱の中で最も点数が多く、その数は2301点にのぼる。その分内容も多岐にわたるが、大庄屋時代の横帳や書状が多い。箱13に収納される横帳の一覧を表2にした。安政2、6年、元治元年、万延元年の帳面が一括されている。横帳は囲蔵や普請人足取立、奉公中間人割、組割など大庄屋業務の主軸となる帳面類だといえる。

また、袋「文政七甲申年 / 畿利支丹宗門御改帳 / 二月與保呂村」(13-212～358)には近世書状や登尾村・岡安村山論の史料が含まれる。13-359以降は、13-1159～1340番台に近世史料が残るほかは近代史料が多くを占める。近代史料は書簡や領収書類が多い。このように、近世と近代にまたがる箱は、公的な史料を多く含んでいる点が特徴的であり、ここからは木船衛門が近世・近代を通じて公的役職を担い、その地位や特権性が維新时期前後で断絶せず、領内で一定の公的権力を有していた可能性を指摘できるだろう。近世・近代の過渡期における木船衛門の職務の変遷や、大庄屋の職務・立場を捉え返す際にも注目できる点である。

箱14も1120点と大量の史料があり、箱13と比べると「永代譲状」や「願」といった近世の一紙、証書類が多く残る点の特徴である。14-549～573のこより一括史料からは、木船家が村々難渋人を把握していた様子がわかる。

箱15は易学の典籍・刊本・書状類のほか、近世の一札文書・証書類が入り混じる。内容は多様である。

箱 16、17 は近代史料が大半であり、その内容は納音をはじめとする易学、囲碁図面・折り紙・芭蕉文集・絵葉書や、人体図や測量地図など大判の絵図類など多様である。また、公務に関するもの、農業・園芸雑誌や漁業関連史料、戸長名簿などがあり、近代における趣味や生活の様子が詳しくわかる。

箱 18 では家相図や刊本が数十点残るほか、大庄屋関連の横帳が多く残る。文化 10～12 年の宗門御改帳が残るほか、一括史料として横帳の「当座日記覚帳」「当座帳」、横半帳の「御用諸事心覚帳」の 3 種の帳面があげられる（2 冊分は箱 7 にある）。1 年に 1 冊として天保 3 年～安政 5 年までの 27 年間、合計 58 冊の記録が含まれる。うち天保 3 年～天保 15 年は「当座帳」を除く 2 冊組で揃い、天保 11 年は「子之当座日記覚帳」の 1 冊のみで残る。弘化 2 年（1845）～嘉永 7 年（1854）は 3 冊組が揃う。また、安政 2 年以降は「当座帳」のみが残る。横半帳の「御用諸事心覚帳」は、縦 15cm 横 10cm ほどの大きさであり、その筆致からも、常に携帯し使用していた可能性が高い。据置き横帳と携帯性を重視した横半帳の両方を活用していたと考えられ、大庄屋業務形態の一端を伺える。

最後に箱 19 は近世横帳・覚の切紙類が多くを占める。また、袋「天保十五甲辰年 / 囲蔵入稗新規帳 / 銀札預り / 御上ヶ書上置入」（19- 1～10）に代表されるように、囲蔵に関連する史料が残る。

以上、木船家文書の全体概要をみてきた。木船家文書は、近世後期の藩政や村落支配、大庄屋の業務を考えるうえで貴重な史料であり、さらに近代の舞鶴の発展、前近代との関わりにも示唆を与えてくれる。今後追加の目録公開により多くの活用がなされることを期待する。

表 1 木船家文書の箱概要

番号	箱の状態	点数	内容	時代
1	—	893	近世帳面（測量・秤・見分）・証文・書状	近世近代
2	—	99	近代冊子（農学・城丹蚕業講習所・趣味）・絵葉書	近代
3	小つづら	43	近世証文、近代冊子（農学・趣味）	近世近代
4	小つづら	27	近世横帳（家政）	近世近代
5	小つづら	138	近世書状・証文、近代冊子（金銭、頼母子）	近世近代
6	段ボール収納箱	286	写真、領収書、近代手紙	近代
7	段ボール収納箱	76	近世横帳（大庄屋、万覚当座帳）・状物、近代冊子（農作）	近世近代
8	段ボール収納箱	89	近代典籍（趣味）、冊子（農学、新舞鶴）	近代
9	段ボール収納箱	578	近代絵葉書（趣味）、賞状、冊子（新舞鶴）	近代
10	家相図（札なし）	12	家相図	近代
11	木箱（白）	91	近代冊子・新聞	近代
12	木箱（四方形）	825	近代公的書類（任命）・証文（土地、金銭）、履歴書	近代
13	柳行李の分	2,301	近世横帳（大庄屋）・状物、近代冊子・典籍、書状	近世近代
14	黒塗箱	1,120	近世状物（願）・証文（金銭）・御札所、近代典籍（易学）	近世近代
15	書籍箱	233	典籍、状物、家相	近世近代
16	木箱（黒）	795	近代絵図・横帳・証文（金銭）・冊子（農学）・刊本（趣味）	近代
17	木箱	267	近代典籍（趣味、占術、農学）・借用証文・横帳（家政）	近代
18	コワレつづら	671	近世横帳・縦帳（大庄屋、万覚当座帳）・書状、典籍（占術）	近世近代
19	段ボール収納箱	478	近世横帳（大庄屋）、近代書状、覚	近世近代
合計		9,022		

表2 箱13の横帳一覧

	帳名	安政2年	安政6年	元治元年	万延元年	その他の年
1	諸奉行入用割帳	13-17	13-75	13-66	13-45	
2	御中間月抱割帳	13-31	13-73		13-37	
3	伊佐津川御普請人足買入并御扶持米仕 出し差引勘定仕出し帳	13-18				
4	伊佐津川買入人足扶持米帳		13-92	13-62	13-43	
5	奉行人増給割帳	13-32		13-2180	13-46	
6	歩戻り仕出し帳	13-27	13-83	13-2175	13-53	
7	歩戻り利足取立帳	13-16	13-89	13-2173	13-54	
8	組割并諸勘定差引帳	13-33	13-72		13-39	
9	御囲蔵利札取立帳	13-28	13-87	13-70	13-55	
10	惣分御通	13-26	13-79			
11	御山方人足并安政二卯三月の未十二 月迄組内拝割	13-85				
12	巖登水割帳	13-21				
13	御介抱諸入用割帳并砂入共	13-20				
14	御介抱入用割帳			13-2179	13-38	
15	非常手当積金帳元割帳		13-90		13-40	
16	諸取替勘定帳		13-80		13-42	
17	御蔵米直し賃割帳		13-88	13-63	13-51	
18	囲蔵積金帳		13-81	13-2174	13-52	文化元 /13-61
19	組内年中惣分割帳		13-71	13-67	13-36	
20	歩戻り積金勘定帳		13-82	13-2181	13-56	
21	非常手当米利足取立帳		13-86		13-57	
22	御検見入用割帳		13-76			
23	砂入用割帳		13-84			
24	御台場人足割帳		13-93			
25	泉源寺村御用材木人足割帳		13-94			
26	御用茅代物割帳			13-35		
27	組為替勘定帳			13-65		
28	御中間出人引切名前帳			13-68		
29	御巡見拝借年賦割帳			13-69		
30	千歩一取立帳			13-24		
31	御山方人足坪割帳				13-50	
32	奉公人割帳				13-48	
33	無扶持人足秤帳				13-2176	
34	御台場人足勘定帳				13-2177	
35	軍役人足割帳				13-2178	
36	御用物割帳					元治2/13-34
37	御厩藁葛葉割附帳					慶応元 /13-25
38	囲蔵稗高員数并記録帳					慶応元 /13-11
39	組内諸事記録帳					天保元 /13-12
40	御用物割帳					文久4/13-30
41	川除御普請入用入積りノ書					嘉永4/13-64
42	野形御見分人足割帳					文化8/13-60

表紙の解説

	1	2	3
5		4	
(裏)		(表)	

- 1 「まるまる舞鶴」WEB
- 2 日下安左衛門家相図(部分、木船衛門家文書 17-233)
- 3 舞鶴地方史研究会との共同調査 長谷川巴南撮影
- 4 東舞鶴港俯瞰(多祢山からの展望) 松岡秀雄氏撮影
- 5 東舞鶴高校での授業風景 長谷川巴南撮影

京都府立大学文化遺産叢書(2008～ 京都関係)

- 1 南山城・宇治地域を中心とする歴史遺産・文化的景観の研究
- 3 八幡地域の古文書と石清水八幡宮の絵図:地域文化遺産の情報化
- 4 八幡地域の古文書・石造物・景観:地域文化遺産の情報化
- 5 丹後・宮津の街道と信仰
- 6 城陽市域の地域文化遺産:神社・街道の文化遺産と景観
- 9 和束地域の歴史と文化遺産
- 10 石清水門前寺院・南山城地域の古文書:京都府歴史資料の調査
- 11 舞鶴地域の文化遺産と活用
- 12 「丹後の海」の歴史と文化
- 14 舞鶴・京丹後地域の文化遺産
- 16 舞鶴の地域連携と世代間交流:井上奥本家文書調査報告
- 18 京都東山・三嶋神社文書調査報告
- 19 京都雲ヶ畑・波多野六之丞家文書調査報告
- 20 綾部地域における文化資源の発掘と継承
- 21 京都山伏山町文書調査報告
- 22 あのころの雲ヶ畑:京都雲ヶ畑写真資料調査報告
- 23 文化財の保存活用と地域コミュニティ
- 26 京丹後市久美浜町太刀宮文書(久美浜代官所郡中代文書)・佐治家資料調査と御用留横断研究
- 27 君尾山光明寺文化財調査報告・由良神社文化財調査報告
- 28 夜久野の後期古墳と末窯跡群



京都府立大学文化遺産叢書 第30集

舞鶴木船衛門家文書調査報告 京都府北部MALUI連携事業

編集 東昇
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5
発行日 2024年3月31日
印刷 株式会社サンエムカラー
〒601-8371 京都市南区吉祥院嶋檜山町37